



人の生活を経済の観点から学んでいく

谷ヶ城 鈴木さんは生活環境経済学科をどんな魅力のある学科だと思いますか？

鈴木 生活環境経済学科は身近な生活環境の変化やそれに伴う社会問題など、生活と密接したテーマを経済学の観点から学べる学科だと思います。魅力は学びを通して生活に関わる物事を多角的な視点で考えられるようになることや、課題の発見とその解決法を思考する力がつくことだと思います。

谷ヶ城 そうですね。本学科では人々の労働と生活を学ぶために有用な専門科目を数多く揃えています。他の学部・学科に比べて基幹科目・発展科目などの専門科目を柔軟かつ自由に選択できることが特徴ですが、どのようなことを学んでいますか？

鈴木 私は主に「日本経済史」を学んでいます。日本の企業や経済が歴史的に変化する過程で起きた問題を分析・考察することで、これからの未来を考える一助になるとと思っています。

余暇に注目し、生活環境の変化を研究

谷ヶ城 歴史研究の目的は歴史の教訓と言われますが、これを得るには正確な叙述が必要です。そのため学者は何度も歴史を書き直します。これが歴史研究の本質です。そのテーマは教科書に載っている歴史に限らず広範囲に渡りますが、鈴木さんは現在どんなことを研究していますか？

鈴木 今は「余暇としてのゲームとその産業」をテーマに研究しています。暮らしの中で変化していく日本人の余暇時間に着目し、企業の対応を分析することで、意外な事実や無関係と思われる事柄が影響している事実を知れることが興味深いです。

谷ヶ城 いいテーマですね。鈴木さんが取り組むゲーム産業の歴史は、生活時間の時系列的な変化を説明するために欠かせないピースです。また、他の所属学生たちも比較的新しい現象をテーマにしていますが、歴史を遡ると人の行動が意外と変わらないことに気づきます。そうした気づきも歴史研究の醍醐味であるといえますね。大学で多くのことを学んだかと思いますが、卒業後の進路は決まりましたか？

鈴木 大学での学びを通して、小売りと医療分野を掛け合わせた業種に興味を持ち、希望通り医療機器の製造・販売を行う企業から内定をいただきました。本学科で学んだ様々な知識・能力を活かして、多くの人が充実して暮らせるよう貢献していきたいです。

「学びを深める有用な科目を揃えています」

谷ヶ城 秀吉 教授



4年

鈴木 敦士 さん

「課題の発見、解決をする能力が身につきます」

身近な問題から国際問題まで、生活環境の相違をベースに考察していく